# 乙　貞

第161号　通 巻28巻　第４号
平成20（2008）年11月15日　発行


守山市立埋蔵文化財センター
Tel・Fax　０７７－５８５－４３９７
〒　５２４－０２１２
守山市服部町２２５０番地

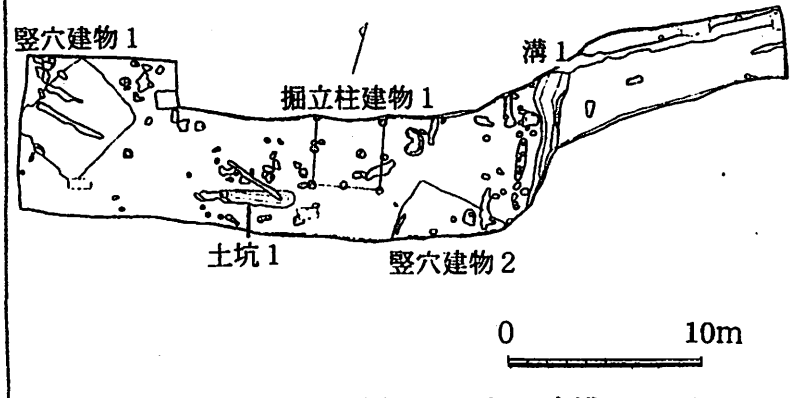

## 発掘調査だより

### １．益須寺関連遺跡の調査

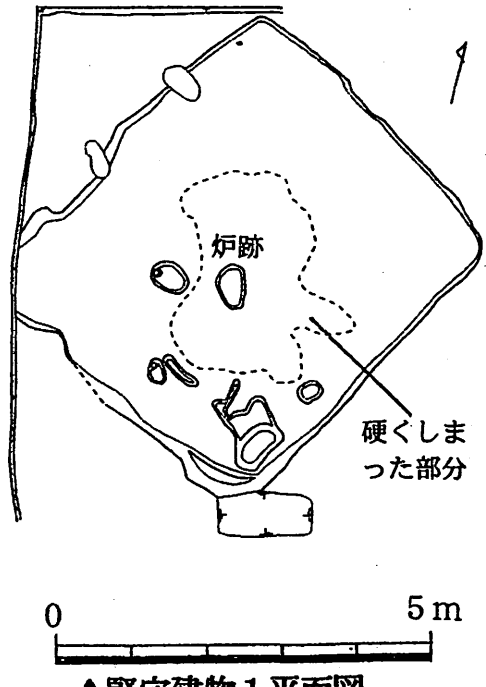
吉身五丁目字島田地先において、宅地造成工事に伴い約554㎡を対象に９月から発掘調査を実施しています。これまでの調査で、弥生時代後期と奈良時代後半の二時期の遺構を確認しています。

弥生時代後期の主な遺構は、住居と考えられる竪穴建物二棟を検出しました。竪穴建物１は一辺の長さが５ｍ×4.5ｍで、床面中央部から炉跡とみられる焼土や炭が多く堆積した土坑が見つかりました。この炉を囲むように床面が硬化（人が踏みしめて硬くなった部分）しており、この建物の住人が炉の周りを中心にして生活を営んでいたことが想像されます。竪穴建物２は一部が調査区外に広がっているため全容が明らかでありませんが、竪穴建物１とほぼ同じ規模であると考えられます。また、床に同様の硬くしまった面が広がっていることも確認しました。

奈良時代後半期の主な遺構は土坑や溝があります。土坑１は縦長の形で、須恵器や土師器が多量に出土するとともに、鉄釘が数点出土しています。掘立柱建物１は２間×２間以上の規模で、各柱間は約1.8ｍとほぼ同じ距離です。遺物は須恵器の細片が出土したのみで、正確な年代はわかりませんが、おそらく奈良時代後半代に廃絶したものであろうと考えられます。新たな調査成果については次号で報告したいと思います。　（木下）




▲益須寺関連遺跡第１調査区遺構平面図




▲竪穴建物１平面図

## 2．播磨田東遺跡第17次調査

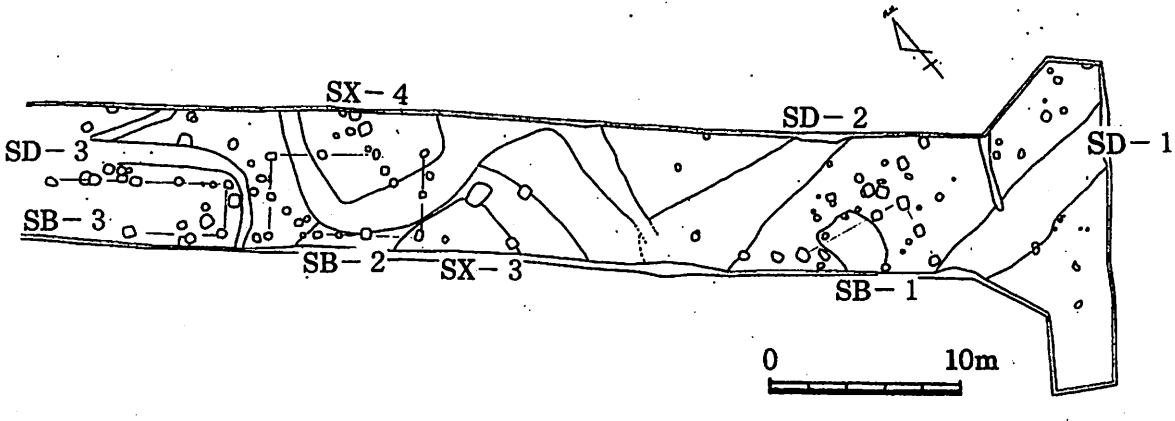
８月から埋蔵文化財センター調査員として勤務させていただいている平井耕平と申します。３月まで学生だった新米ですが、守山市の文化財を調査・研究･活用し、市民の皆様の生涯学習に役立てればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、現在播磨田町地先において、宅地造成工事に伴う発掘調査を行っています。播磨田東遺跡は縄文時代後期から中世にかけての集落遺跡として周知されています。今回の調査地周辺では、弥生時代中期の環濠や古墳時代から奈良時代と思われる掘立柱建物跡などが確認されており、弥生時代中期や古墳時代後期から奈良時代の集落が発見されることが期待されました。

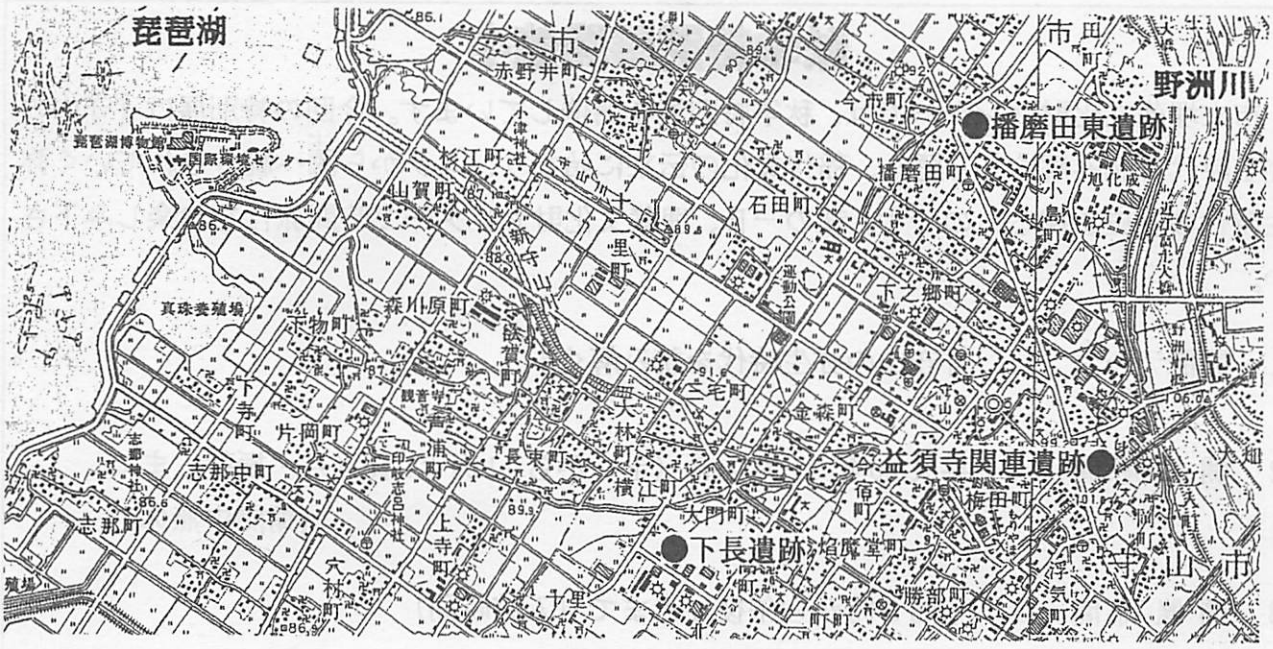
これまでの調査では、弥生時代中期後葉の方形周溝墓２基（ＳＸ－３・４）や弥生時代中期の溝（ＳＤ－１・２）が検出されています。このうち、ＳＸ－４の周溝からは石鏃や土器が出土しています。これらの方形周溝墓は、隣接する酒寺遺跡などで確認されている列状配置（野洲川流域に特徴的な弥生時代中期のお墓の造り方。溝を共有して一列、又は二列に造る。家族のような血縁関係にある人々が築いたと考えられている。）になる可能性があります。ＳＤ－１・２は幅約３ｍ、深さ約１ｍの規模で、周辺で確認されている環濠の一部である可能性があります。

このほか掘立柱建物跡（ＳＢ－１～３）３棟が検出されています。ＳＢ－１は２間×３間以上の規模で、古墳時代後期以降の年代が考えられます。ＳＢ－２・３は野洲郡条里に沿って建てられた建物跡です。ＳＢ－２の規模は２間×３間で、長辺の柱間は約 2.7m、短辺の柱間は約 2.1mです。ＳＢ－３は２間×４間以上の規模と考えられ、柱間は約 2.4ｍです。また、ＳＢ－３を囲むように区画溝（ＳＤ－３）があります。建物の柱穴や区画溝から平安時代中期頃の緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器などが出土しています。

以上のように、列状配置の可能性がある弥生時代中期の方形周溝墓や区画溝を伴う平安時代中期の掘立柱建物跡の検出など、これまでに多くの調査成果を得ることができています。調査はさらに 12 月初旬まで継続する予定です。今後の調査において、さらなる資料が確認されることが期待されます。　　（平井）




▲播磨田東遺跡第17次調査遺構平面図



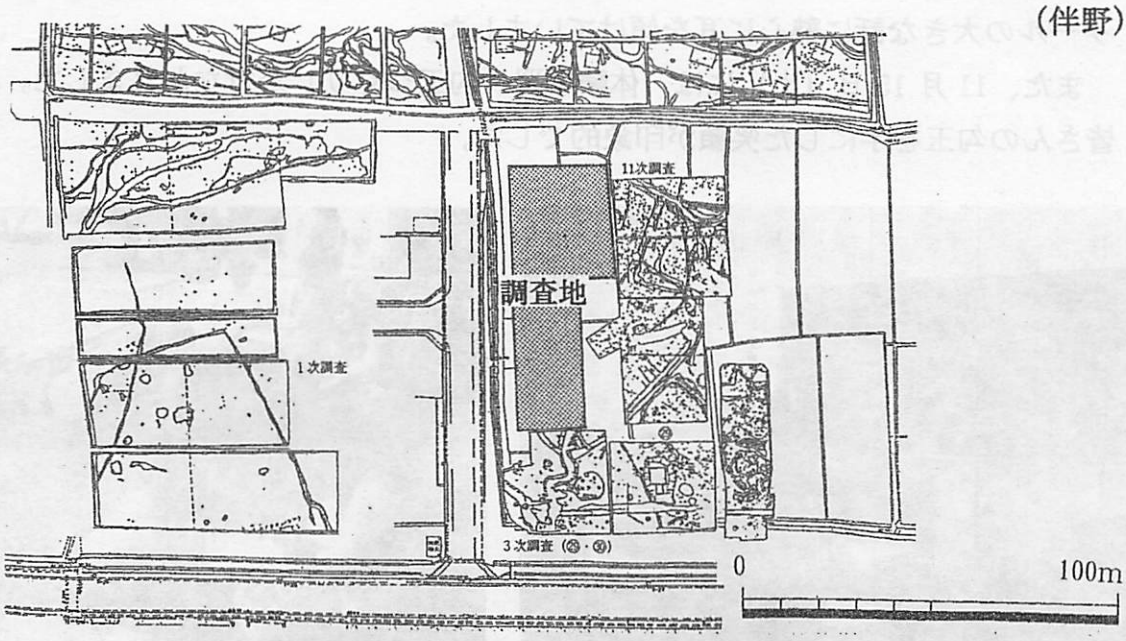

▲調査位置図

## 3．下長遺跡第 23 次調査

10 月 20 日から、古高工業団地内で工場新設に伴い発掘調査を開始しました。調査地点は、平成３年度に行われた下長遺跡 11 次調査の南西側隣接地にあたります。11 次調査では、溝で方形に区画した中から大型建物が発見されており、首長（しゅちょう）の居館（きょかん）と考えられています。この居館周辺からは組帯文（そたいもん）が施された儀杖（ぎじょう）などの威儀具（いぎぐ）が出土しており、古墳時代初頭の強大な権力を持つ王が居住していたと推定されます。

今回の調査地点はこの区画の内側にあたります。これまでに旧河道の一部が検出されており、多量の古式土師器（こしきはじき）が出土しています。今後の調査で、居館の構造が明らかになるものと期待されます。

（伴野）




▲下長遺跡 17 次調査地 周辺遺構平面図

# 秋季特別展開催中

市立埋蔵文化財センターでは、秋季特別展を開催しています。今回の特別展は『守山の弥生時代を読み解く』と題し、稲作文化の伝来に始まり、ムラから國へ統合されていく弥生時代の歴史を探るものです。秋の一日、埋蔵文化財センターで時間旅行をお楽しみ下さい。

1　開催テーマ　　『守山の弥生時代を読み解く』

2　開催期間　　平成20年11月1日（土）から11月24日（月・振替）まで
（期間中無休）

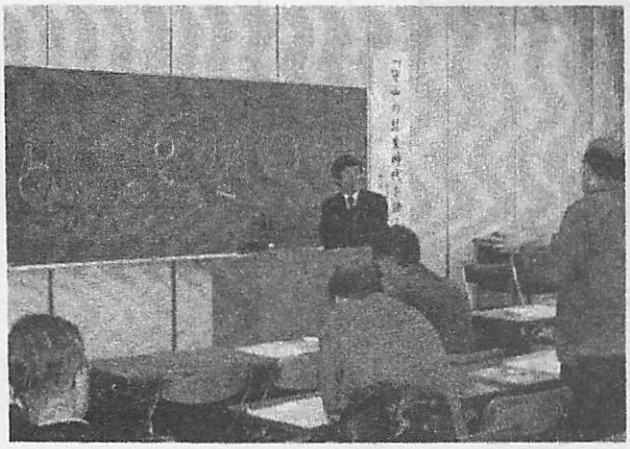
3　開催時間　　午前9時から午後4時まで（入館時間）

4　主な展示品　　服部遺跡出土土器、中島遺跡出土土器・石鏃・石槍・石斧
下之郷遺跡出土戈の柄・銅剣・弓・盾・石鏃・石剣・土器
二ノ畦・横枕遺跡出土土器・井戸枠・鉄鏃・鉄製やりがんな
山田町遺跡出土土器・石鏃・石斧、伊勢遺跡出土土器・柱根
下長遺跡出土土器・儀杖・漆塗り刀装具

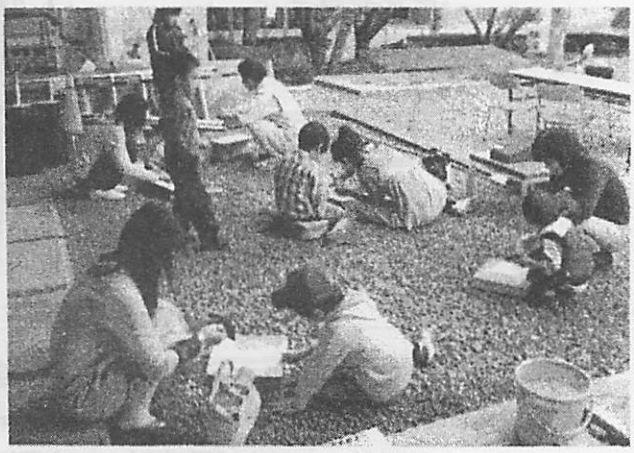
【交通機関】JR守山駅から近江バス服部線で「市立埋蔵文化財センター」行き、または「野洲川歴史公園サッカー場」行き終点下車

☆　11月8日（土）には関連行事として、『守山の弥生時代を読み解く』と題した講演会が開催されました。参加者は、講師の丸山竜平さん（名古屋女子大学教授）のスケールの大きな話に熱心に耳を傾けていました。

また、11月15日（土）には、体験学習「勾玉づくり」が行なわれました。参加した皆さんの勾玉を手にした笑顔が印象的でした。



▲講演会風景



▲勾玉づくり風景